

DigitalCamera倶楽部

SEP 2016
Vol.129

長良川の鵜飼いを見て来ました

長良川の鵜匠の正式名称は宮内庁式部職鵜匠、日本で唯一この肩書を与えられているそうです。その技は長良川鵜飼 6 人、小瀬鵜飼 3 人の鵜匠から代々世襲で親から子へと受け継がれているそうです。

今回は特別に我々の乗った船を目掛けて、5 艘の鵜飼い船が一度に見せてくれる、総がらみの企画でした。

ストロボを使うと、鵜が驚くかと思い遠慮しながら写しましたが、何も問題はありませんでした。思ったより船足が速く、フレームに入れるのに苦労しました。



金華山の山頂に、岐阜城 50 年も経つだろうか、名古屋に出張のおり長良川の畔を歩いた、今日と同じ真夏の空にはトンビが輪を描いていた。



マンホールの蓋にも鵜と鵜飼い船がデザインされていました。





鵜匠の一人、山下哲司さんが我々の船に自分の船を寄せて、鵜飼いの歴史から鵜の訓練など、色々お話を聞かせて貰いました。

20 cm くらいの鮎なら 15 匹くらい一度に喉に入るそうです。鵜の体温が高く鮎が傷むので、早めに吐き出させるそうです。

鵜で漁った鮎は市販の 10 倍くらいの値が付くそうです。

ぎふの庄ながら川のうがひとて、よにことごとしう云ひのゝしる。まことや其興の人のかたり伝ふるにたがはず、浅智短才の筆にもことばにも尽くすべきにあらず。心しれらん人に見せばやなど云ひて、やみぢにかへる、此の身の名ごりおしさをいかにせむ。

おもしろてやがて悲しき鵜舟哉 芭蕉



上田良光のページ

暑い太陽に向かって元気いっぱい咲くひまわり



春は菜の花、夏はひまわりの花で迎えてくれる



夏には沼一面に赤や白・ハスの花咲きほこる



吉次宣哉 のページ

富士見高原花の里





武 富 正 義 の ページ 「盛夏」





細川隆雄 撮影のページ



庭に来る、虫を観察してみた



相模原北公園で
相模原市の花 紫陽花
さすがに色々な種類のアジサイ
が咲き乱れていた

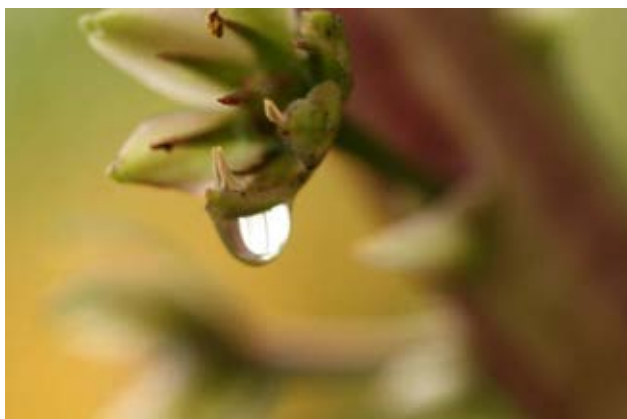


梅崎 桂子のページ

雨上がりの朝

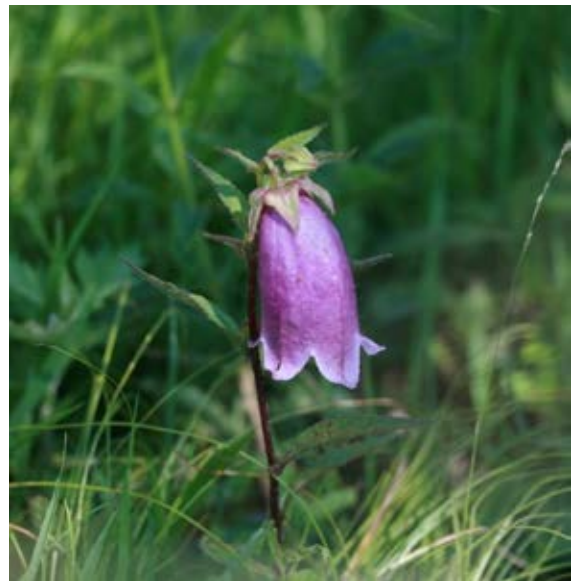
平成 28 年 8 月 撮影

シュウカイドウの水滴が
可愛かったです



岩永精一のページ

夏の高原



谷 元 範 章 のページ

第 40 回 阿波踊り(大和)





厚
木
鮎
祭
り



東
京
農
大
の
大
根
お
ど
り

森恵美子 のページ



富士見高原（3題）
花々に囲まれる
真夏の天空



瀧 亀久男のページ

貴船まつりと頼朝伝説

真鶴の漁港を中心に繰り広げられる貴船祭りは、日本三大船祭りとして江戸時代から続く伝統行事で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

鵜(しとど:鳥の名前)窟は、頼朝伝説では、頼朝が伊豆で挙兵し石橋山にて平家と戦い敗れ、隠れた窟と言われて保存されています。



7 月 27 日 西小早舟、水浮(進水式)氏子の元気な姿が印象的





貴船神社の石段



花山車(はなだし)の出発



鵜の窟屋(しとどのいわや)

1180年(治承4年)今から836年前源氏の源頼朝が伊豆にて平家の目代山本兼隆を討ち挙兵したが、8月23日石橋山の合戦で敗れこの窟屋に隠れたと言われている。その後 地元の支援者の協力を得て安房の国(千葉県)の孤島(仁右衛門島に頼朝ゆかりの洞窟がある)に渡り再起し、鎌倉幕府を開き歴史上の人物となったと伝えられている。

金井陽子 のページ

「北杜市 明野町」



野口 強のページ

ザ．オウムショウ掛川







鮫島澄人のページ

野辺山（田中晴彦モダンアート美術館園内にて撮影）



西洋コスモス



マツムシソウ



赤岳頂上小屋と展望荘

